



9月 調布幼稚園だより

令和5年9月1日



『これからの時代に必要な力』

園長 山形美津子

夏休みが終わりました。今年の夏はコロナ禍から解放されると喜んでおりましたら猛暑の夏になってしまいました。毎日、熱中症の心配をしなければならない暑さの中で、皆さまもお子さんとの過ごし方に戸惑われたことでしょう。それでも夏休み中は、帰省をしたり、普段できないような体験をしたりと、有意義な夏を過ごされたことと思います。まだまだ、残暑の厳しい日々が続きます。どうぞ健康に留意してお過ごしください。

今日から調布幼稚園の二学期が始まります。二学期には、年長祭り、運動会、発表会等いろいろな行事を予定しています。小さな行事でも大きな行事でも子どもたちにとっては、その日に至るまでの努力の過程でたくさんの学びを経験していきます。私たちも子どもの年齢に応じた内容や課題に積極的に取り組みながら、子どもの未来を見据えた様々な力を身に付けさせたいと思っております。

今、世の中は人工知能（AI）が普及し、人間の仕事を肩代わりするような時代を迎えています。園児たちが社会で活躍する20年後は、今の職業の約半分がAIに変わってしまう時代が到来するだろうと言われています。すでに人間の問いに答えてくれるチャット GPT に代表される AI が当たり前のように使われる時代になってきています。

このような時代の変化に対応するため、文部科学省は、子どもたちが将来どのような職業に就くとしても時代を超えて普遍的に求められるプログラミング的思考力の向上を目指した取り組みを始めています。この「プログラミング的思考」は、「物事を正しく認識する力」、「物事を分析する力」、「物事の関係性を把握し組み合わせる力」、「目的に応じて改善・検討する力」の4つの力に要約できるものです。小学校でも児童がプログラミングを体験しながら、論理的思考力を身に付ける学習活動を充実するとしています。

調布幼稚園でも20年後の子どもたちの活躍を期待して、「これからの時代に必要な力は何か」を研究していく必要を感じており、調布学園中等部高等部の情報科の先生と連携して幼児のプログラミング的思考に関する園内研究を進めていく所存です。

どういう時代になっても人間にしかできないことはたくさんあり、人間として取り組まなければならないこともたくさんあります。今、幼児期の子どもたちが身に付けておかなければならない力は、「人とかかわる力」、「コミュニケーション力」、「自分で物事を考えて判断する力」だと思っています。

2学期の園生活では、日々の主体的な遊びや自ら考えたり試したり工夫したりする時間を大切に、様々な行事を友達と気持ちを合わせ、コミュニケーションを取りながら進めていくことや、一人一人が最後まであきらめないで頑張ることなどの経験を豊かにしていきたいと思っています。

このことが、小学校で実践される「プログラミング的思考」に結び付くと考えています。

保護者の皆様、地域の皆様、二学期もご支援ご協力のほどよろしくお願い致します。

9月の目標

全学年

- 1学期に育てていた栽培物や畑の様子の変化に関心をもつ。
- 園生活のリズムを取り戻す。
- 熱中症予防の意識をもち、日陰で遊んだり、水分を十分に摂ろうとしたりする。

年少組

- 園生活のリズムを思い出し、喜んで登園する。
- 気に入った遊具や遊びの場で、自分なりのやり方で遊びを楽しんだり、同じ場にいる友達に親しみをもち、かかわりを楽しんだりする。
- 暑い日の過ごし方を思い出し、汗をかいたら自分でハンカチで拭いたり、水分補給をしたりする。

裏面に続く

年中組

- 友達とのかかわりを楽しみながら、自分の思いを言葉や動きで伝えたり、友達の思いにも気付こうとしたりする。
- みんなで一緒に取り組む中でルールを守って遊ぶ楽しさや必要性に気付き、勝ち負けのあるゲーム遊びに参加し、嬉しさや悔しさなど様々な感情体験をする。

年長組

- みんなでする活動を楽しむ中で、友達の良さに気付いたり、認めたりする。
- 友達と共通のめあてをもって遊びを進める楽しさを味わう。
- 自分の意見を伝えるとともに、友達の意見も聞いて、皆で一緒に活動をやり遂げ達成感を味わう。
- 年長祭りを通して、自分たちが一生懸命頑張ったことによって、年少組や年中組にも楽しんでもらえたという満足感を味わう。

とんぼのめがね

作詞 額賀誠志
作曲 平井康三郎

とんぼのめがねは
みずいろめがね
あおいおそらを
とんだから とんだから

とんぼのめがねは
ぴかぴかめがね
おてんとさまを
みてたから みてたから

とんぼのめがねは
あかいろめがね
ゆうやけぐもを
とんだから とんだから



夏休みを終え久しぶりに畑に行くと、大きくなったサツマイモの葉が茂り、バッタやバナナ虫、テントウムシ、コガネムシ、ダンゴムシ、時にはカマキリなどいろいろな種類の虫に出会えます。子どもたちが虫取りに夢中になる姿が目には浮かびます。

空を見上げると、真っ白な雲がぽっかり浮かんでおり、ずっと見ていると形が変わっていく様子に、子どもたちの「ハートに見える」「雲と雲がつながった」「顔に見える」などいろいろなイメージを膨らませる声が毎年聞こえます。今年はどんなイメージが湧くでしょうね。

畑に飛んでくるトンボに、教師が立ったまま指を高く差し出してじっとしているとトンボが止まってくれることもあります。それを見た子どもたちは自分も、自分もと指を高く差し出し、じっとトンボが止まるのを待つという姿もあります。田舎で楽しむような風景が調布幼稚園の畑で見られます。

夏に見られる『シオカラトンボ』や『オニヤンマ』から、羽の先が赤い『アキアカネ』など、トンボも種類が変わってきます。図鑑で子どもたちと一緒におしゃべりしながら調べるのも、楽しみの一つです。実体験からの『知りたい』という興味は、子どもたちの知的好奇心を掻き立てます。

二学期も元気に過ごしましょう。

9月も下旬になると、どんぐりの仲間の『クヌギ』が落ち始めます。10月頃から11月にかけて『マテバシイ』『コナラ』『スタジイ(シイの実)』など、いろいろなどんぐりの実が落ち、子どもたちにとって、どんぐり拾いは楽しみの一つでもあります。

幸いにも、田園調布学園中等部、高等部のグラウンドにどんぐりの木があり、運動会の練習の合間に、子どもたちが拾って楽しむ姿が毎年見られます。台風や風で落ちたのか、まだ緑の実もあり、とてもきれいで、大事にしている子どもたちを見ると、私たち教員も嬉しくなります。

もう2、3年前のことですが、卒業した子どもたちが在園中にどんぐりを拾ってきては渡してくれました。どんぐりの木を調布幼稚園にも植えたいと、私が言っているのを聞いていたようです。発芽率が悪く、なかなか芽が出ませんでした。もらったたくさんのマテバシイやクヌギなどの実を植木鉢に植えたところ、芽が出て来て1mくらい大きくなった頃に、用務員の徳永さんに畑とオープンルームの庭に植え替えてもらいました。もうずいぶん大きくなり、もう少しで実を付けそうです。幼稚園の敷地内でどんぐりを、拾いたいだけ拾える日も近いことでしょう。子どもが夢中で拾う姿が楽しみです。

幼稚園にはドジョウも飼っています。『どんぐりころころ』の歌を歌う時にはクラスにドジョウがお邪魔します。お話の世界を歌った「どんぐりころころ」の歌を歌いながら、どんぐりやドジョウを見て想像を膨らませることでしょう。

どんぐりころころ

作詞 青木存義
作曲 梁田 貞

どんぐりころころ どんぶりこ
おいけにはまって さあたいへん
どじょうがでてきて こんにちは
ぼっちゃんいっしょに
あそびましょう

どんぐりころころ よろこんで
しばらくいっしょに あそんだが
やっぱおやまが こいしいと
ないては どじょうを
こまらせた

